

ち
いき
世界の国や地域と協力してめざす「2050年カーボンニュートラル」

おん だん か えい きょう たい さく
地球温暖化による気候変動の影響は、世界共通の問題であり、その対策についても、世界各国が協力
かい げつ
して、目標やルールを決めたりしながら取り組んでいます。気候変動問題の解決に向けて、2015年に
へい せん
フランスのパリで国際的なルール(パリ協定)が示され、世界共通の長期目標として、「**世界的な平均気温
じょう しょう おさ**上昇を産業革命前(1850~1900年)に比べて2°Cより低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力を追求
かく めい
すること」などが取り決められました。

この実現に向けて、現在、日本を含む世界の120以上の国と地域が「**2050年カーボンニュートラル**」を目標に掲げ、さまざまな取り組みを進めています。

カーボンニュートラルとは？

CO₂などの温室効果ガスの「排出される量」と「吸収される量」を同じにし、差引きゼロにすること



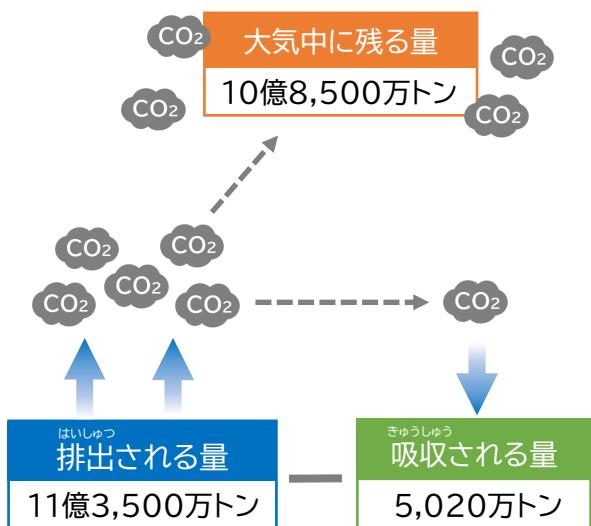
現状

はいしゅつ きゅうしゅう
排出される量 > 吸収される量

日本で排出される温室効果ガスの量は、11億
3,500万トン(2022年度)です。

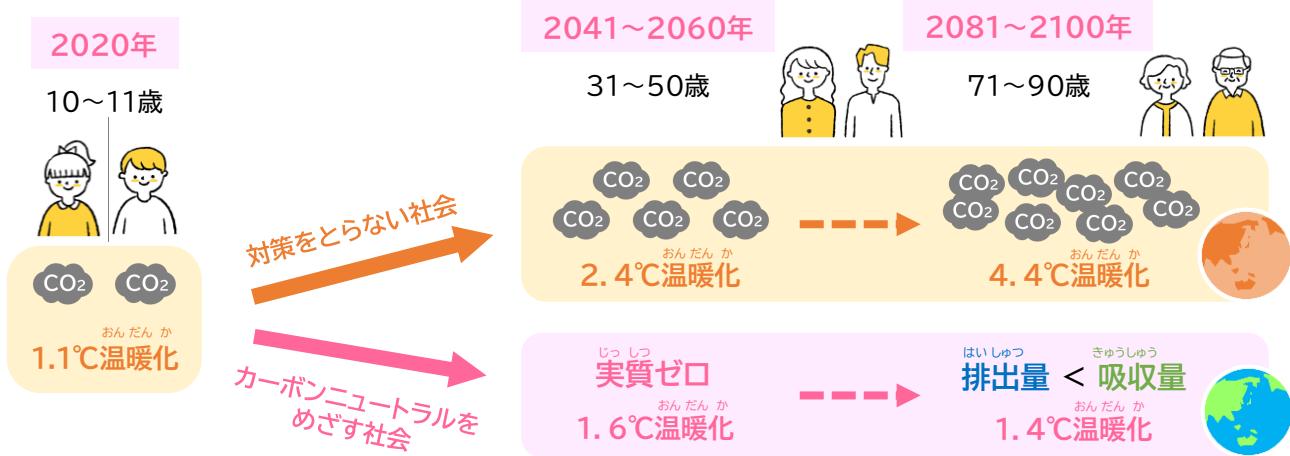
そのうち、5,020万トンは森林等により吸収されますが、残りの10億8,500万トンは、大気中に残ってしまいます。

そのため、①排出される量をできる限り減らし、
②どうしても減らせない分は吸収される量を増
やして、「実質ゼロ」をめざすことが大切です。



なぜカーボンニュートラルをめざすの？

世界の平均気温は2020年時点で、産業革命前(1850~1900年)と比べ、すでに約1.1°C上昇しています。未来のCO₂排出量・未来の温暖化は、わたしたちの日々のくらしや、企業等の経済・社会活動などのあり方によって大きく変わるといわれています。



温暖化…1850~1900年と比べた温暖化の状況
出典：気候変動2021～自然科学的根拠～（文部科学省・気象庁）

地球温暖化の進行と異常気象

近年、世界各地で記録的な猛暑や干ばつ、大雨や強雨などの異常気象が起きています。2022年、ヨーロッパは“過去500年で最悪”となる干ばつに見舞われました。一方、パキスタンでは、大雨により国土の3分の1が水没する大洪水が発生しました。こうした異常気象は、地球温暖化が進行するほど、頻度と強さが増加すると予測されています。

異常気象は、世界各地の農業にも大きな影響を与えています。ヨーロッパの干ばつでは、トウモロコシの収穫量が過去5年の平均と比べ16%減少するなど、さまざまな農作物の生産に影響が出ました。

日本は、たくさんの食料を輸入していますが、外国において干ばつや洪水などにより農作物が作れなくなると、輸入価格が高くなったり、輸入できなくなるなど、わたしたちのくらしにも影響が出てきます。



干ばつ（イメージ）



大雨（イメージ）

1トンの二酸化炭素の体積は
どのくらい？

二酸化炭素の排出量は、重さの単位の「トン」や「kg(キログラム)」が使われます。
体積で考えると…
二酸化炭素1トンは、25m³※1つ分、
二酸化炭素1kgは、500mLのペットボトル
約1,100本分と同じ量になります。

※プールの体積：25m×16m×1.3m=520m³
※CO₂ 1トンの体積：20°C、1気圧のとき約550m³
(全国地球温暖化防止活動推進センター)

わたしたちが1日に排出している
二酸化炭素はどのくらい？

家庭1世帯から1年間に排出される二酸化炭素は約3,800kgです。1日あたりで考えると、3,800kg÷365日で、約10kgになります。これは500mLのペットボトルの本数に当てはめると、

1kgあたりのペットボトルの本数 1日当たりの排出量

× = 本分

に相当します。

計算して
みよう！